阿知須町廣報

阿知須町役場発行
山口縣吉敷郡
阿知須町
発行人 鋪定好太郎
編集人 大原 武明
印刷所
宇部市指松町五
山日出版局
電話1725番

収入役に中村泰輔氏を選任

二月定例、三月臨時両議会

定例町議会は二月十九日午前九時町議会々議場で行われ

（1）阿知須町林野管理委員設置規定一部改正ならびに委員選任

（2）吉佐選挙院一部組合設立につき

第四回

（3）歳入、歳出追加更正予算節堅

（4）職員給與支給條例改正につき

以上の議案について審議されたが（1）については左の諸氏が任命された

兒玉充男、小林京一、片岡文之進、藤村忠明、山本幸一

追加予算、職員給與ベースアップ問題では中谷、上野、中本各議員の鋭い質問戦と要領攻めで議場は一段と活気を帯びたが、町長、助役の名解答ぶりに一部修正をみただけで原案通り承認され午後二時すぎ閉会した

なお収入役選任問題につき三月四日臨時町会が招集され慎重に審議の結果西岐区中村泰輔氏が満場一致で可決をみた。氏は昭和十九年藤井町長時代の収入役、十七年間山町長時代の収入役として信頼もあつく敏腕をふるつた経験者で将来が大いに期待されている

町民の熱意叶う

阿知須局の集配局昇格

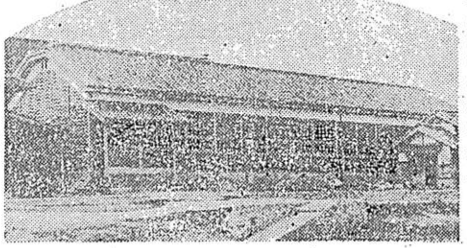
かねて問題中であつた阿知須郵便局の昇格問題は町民多年の念願であり、その熱意に燃えた努力が、ついに実を結び愈々三月二十日から実施する旨郵政省より正式な通知があつた。今まで郵便物も一應小郡局へ運ばれ受付けていたため町内あて先の郵便でも三日位はかかる矛盾や、集配人や保険の集金人も未知の人が多いなど兎角不便で非難が多かつたが、これでこの悩みも解消され〃親しめる我等の局〃となる事が出来た。一方当局でも、つつみきれぬよろこびに接した生田局長は

「今まで町民の皆様へ随分御不自由や御迷惑をかけ申訳なかつたが今後は集配をはじめ保険、年金その他すべての窓口業務に万全を期し局長以下四丁に到るまで真心的努力を捧げサービスの向上に心掛け皆様の御満足を図りたい。」と今後の抱負を力強く語つた。

明るい教室●子供は朗か

阿小校北側校舎の竣工

昨冬以来早瀬組に依り建築中であつた阿小校北側校舎（三教室）はこの程予定の際なりつぱなものが出来上り三月一日盛大な竣工式が挙げられた。廊下が北側につけられたため今までの老朽校舎に比べ光線も充分で明るく、冬は暖く夏は涼しく、子供の勉強上誠に好ましいものであり、児童、父兄揃に大へん喜ばれている。こうして次々と第二の国民を育成する立派な殿堂が理想通りに出来上つて行くことはほほえましい光景である。



（写真は出来上つた校舎）

えびジャコが第一位

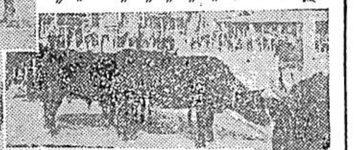
二十六中の漁協組の水揚げ

阿知須漁協組の調査によれば二十六年中における同魚市場に水揚げされた漁獲高は六万五千貫で一人一日二十匁あて食べた勘定になる。この漁獲高を種類別に見ると何んと言つてもエビが最高で二万貫を越えており、アナゴ、タコがこれに次いでいる。以下主なものを表に示せば

エビ	一〇、七九四貫
たこ	五、九四六〃
あなご	五、六九六〃
ひらめかれい	五、〇四八〃
くろだい	四、二三三〃
いか	三、二九七〃
ぼら	三、二〇四〃
すずき	一、四六四〃
さわら	六四〇〃
はまぐり	六二九〃
まだい	三八〇〃

次に月別に挙げると

一月	二、三九八貫
二月	一、四七一〃
三月	二、五三九〃
四月	三、八〇八〃
五月	六、六二〇〃
六月	五、三八九〃
七月	六、〇七四〃
八月	七、八五一〃
九月	八、五〇九〃
十月	八、四六一〃
十一月	六、六九四〃
十二月	五、二二八〃



写真説明 （1）会場風景 （2）一等入賞あずま号 （3）一等入賞とよつる号 （4）商工会の仮装隊

役馬一等はあずま號

はずんだ畜産共進会

隣村六カ町村共催の下に二十日行われた共進畜産会は、雨切られた小雪まじりの悪風に見舞われ低調を予想されたが定刻九時には参加予定の約九割の大家畜百十一点、小家畜十五点が出そろい、県畜産技師以下九名からなる審査員の厳正な審査が始まつた。午後天候はときどき雨間をみ、タイアップした商工会の仮装行列、その他の行事にまじつて一般観衆も協力よりかけつけ会場をうずめつくし午後三時には審査を終え会長藤村町長より入賞者に賞状並びに賞金が授与され盛況裡に幕を閉じた。なお栄えの入賞の主なもの左の通り

大家畜

▲役馬の部

一等賞 東号 目 藤村敏夫

二等賞 旭号 目 北浦照秋

▲牛の部

一等賞 とよつる号（無角和種） 東岐波 田辺勝雄

二等賞 とよふじ号（無角和種） 東岐波 田口三郎

二等賞 たさか号（黒毛和種） 佐山 國西忠治

二等賞 初亦号（褐毛和種） 亦迫 國貞準人

二等賞 きよかぜ号（黒毛和種） 東岐波 松原滑場

▲小家畜

一等賞 うさぎ 一対 東岐波 長谷川佐一

二等賞 白色レグホン 一対 秋石 下野友助

肥料木を植えよう

粗悪材の改良はカンタン

一度も伐つた事がなく何百年経つたかわからない古い山でもはえている木は役にも立たない二、三米の松か雑木の粗悪林が本町全体で公私有あわせて約三百町歩余りもある。日ノ山や丸塚山によく見られる。然しこれ等利用価値のない粗悪林も次にあげる肥飼料木を植付けると雑木の材積成長を増加して驚く程の早さで緑化し美林に仕立てることが出来、同時に家畜飼料堆肥材料等も豊富に得られる。次にその樹種名ならびに特長の概略をあげると

一、樹種名

ニセアカシヤ、フサアカシヤ、トゲナシニセアカシヤ、ヤマハンノキ、イタチハギ、ヤシヤブシ、ヤマモモ、エニシダ、クズ等

二、肥飼料木の肥効

肥飼料木は根に根瘤を形成して空中窒素を固定し葉にも窒素含有量が多いため別表の如く隣接木の生長を著しく促進する

三、飼料になる

肥飼料木は葉が非常によく茂りカルシウム、ビタミンABD等の飼料成分の含有量が多く乳牛山羊等家畜の飼料に最適である

四、堆肥材料によい

肥飼料木特にハンノキ、イタチハギ等の葉はタンゴ等より余程肥料價値高く特に稲の秋落防止に最適トゲナシニセアカシヤ、イタチハギ等は造林後四、五年目頃から町当り四、〇〇〇貫採取出来る

五、肥飼料木造林上の特徴

瘠悪な林地にも適し乾燥に耐えて生長が非常に早くトゲナシニセアカシヤ、ハンノキ等は十年も経てば余程の大木になる。

六、その他の利点

肥飼料木の中でもフサアカシヤ、アカシヤモリシマ等は多量のタンニンが採れる上にサクラバハンノキ、エニシダ等と共に庭園用ともなり優れた活花材料がとれる

肥飼料木肥効一例

次の表はヤシャブシを混植した場合と混植しなかつた場合の松の成長量を比較したもの。

植栽地	混非混	樹高	胸高直径	ヤシヤブシ植栽本数
秋穂 松（植栽後廿年）	混植	一一、〇米	二六センチ	町当三、〇〇〇本
	非混植	六、〇米	一三センチ	〇本
佐山（植栽後十年）	混植	三、五米	八センチ	三、五〇〇本
	非混植	一、六米	五センチ	〇本

トピックス

☆阿知須、井関両婦人会では養鶏従事に全然経験のない仁保村秋枝氏が戦後外地より引揚げ永年の苦心の結果現在養鶏経営で成功を収め大へん能率的に処理されている面から、会員約四十名が五日同家の経営状況の団体視察を行つた。この貴重な見学により教えられた数々を実際に生かし我が町村生活の改善に寄与することを誓つた。

☆阿知須商工会では、中小工業者の企業経営を確立するため、かねてから小郡商工会議所と提携し当町へ是非共信用組合を設置すべく計画中である。

☆阿知須、東岐波両町農業委員会では共催で中國、四國農業試験場長松木博士を招聘し三月十四日午後一時より阿小校講堂で土壌肥料についての大講演会を催すので一般多数の来聴をのぞんでいる。

一番はだァれ

ことしの赤ちゃんコンクール

3月20日

町では明るく強く正しく育てる母乳奨励として毎年優良児の表彰を行う事になつているが、本年も次の要領で赤ちゃん大会を実施するので該当者は奮つて参加されるようのぞんでいる。

○と き 三月二十日午後一時

○ところ 役場会議室

○該当者

A、昭和二十六年三月中に出生のもの

昭和二十六年四月一日より二十七年二月末までに出生

○表彰ならびに抽せん

△該当者Aの中から優良男女各一名あて選出表彰し更に四月開催の県大会へ出場権を獲得

△該当者Bの中から男女三名ずつ選び表彰し、かつ右の中各一名あて五月県保健所主催の大会へ推せんする。

「町民の聲」

もつと衛生知識を…

昔は不治の病とさえいわれた結核が現在、医科学の進歩と共に気胸術から、充填術、成形術、肺切除術と外科治療法に進み、更にペニシリン、ストレプトマイシン等の発明によつて一層拍車が加えられて、悪疫のドン底にあつた罹病者にも明るい希望が興えられるようになつた。それも回復までには相当の期間が必要とされている。

罹病者達にとつては、この長期間療養によつて必然的に起つて来る経済的問題が大きな悩みで治療不治は正に之に左右されているといつても過言ではないと私は思う。

折角、結核予防法も布かれ、やつと軌道に乗り始めた今日、わが町でもこの積極的な予防法の樹立に基き、官民一体となつて合理的な治療予防行政が断行せらるるよう努力すべきである。

第一に罹病者の相談所を作り、治療設備の完備した療養所等へ入所の斡旋、経済問題等の積極的世話、第二に一般町民のツ反應、BCG接種、レ線写真検査等の実行と共に、講演、映画、展覧会等による医学衛生知識の徹底普及によつて喚起を促し、健康な町と発展させるべきである。

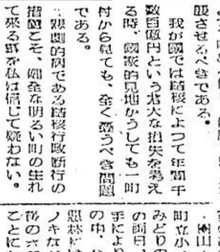
我が國では結核によつて年間千数百億円という莫大な損失を考える時、國家的見地からしても一町村から見ても、全く憂うべき問題である。

一國的病である結核行政断行の措置こそ、健全な明るい町の生れて来る事を私は信じて疑わない。

理解ある町当局と賢明なる町民の皆様の御批判を待つものである

岐比須区 河崎貫（病養）

●学芸会



学年最後の飾りとして町内各小学校では今や学芸会のたけなわで賑つているが既に終つた学校では父兄一般に非常な感銘を興え、かつ喜ばれたが、目前に控えているところでは先生、児童一体となつて最後の総仕上げに躍起である。各校の日どりをのぞいて見ると、

・三月三日 阿小校 十三日 阿中校

四日 井小校

十六日 保育園

【作品展示会と共に】技藝女学園

●螢の光、窓の雪

十九日 阿小校 二十日 阿中校

二二日 技藝女学園

二三日 保育園 二五日 井小校

●佐波郡和田村では教育関係佐藤宅郡町長の下、同村をはじめ教育関係者の一行が当町の中学校を視察のため六日午後二時頃来訪した。

・緑山よ緑に……

町立小、中学校では講和成立記念みどりの週間に因んで、十三、四の両日、三年以上の児童、生徒の手により河内側の学校林約十町歩の中、ハゲ山にはハゲシバリ、粗悪林にはニセアカシヤ、ヤマハンノキなどの肥料木を植え、戦時戦後のさびれた山をよみがえさせることになつた。

一國の興亡はその國の青年の双肩にかかるといわれる。それ程青年には大きな使命があり、かつ盛衰のカギが握られている▲敗戦につぐ物資不足から起つたインフレーションの混乱状態に國民一般は疲弊しきつていたが、さすが三千年の伝統を誇る我が日本青年は敢然として立上り▲全國津々浦々にいちはやく青年団を組織し國土の復興、再建日本をめざし力づよい一歩を踏み出した▲青年アプレ青年の汚名を甘受しながら苦難の七年を乗り越え越え今日に至つたが、今やその努力は報いられ、ようやく芽生は開かれて来た▲一方これ等不撓不屈の真面目な青年諸君に対し一部の不良分子がこれ等の努力を無視し放縦の生活を送り小遣銭に不自由してついに犯罪を働き世の人々から爪はじきされるのはかくせない事実である▲然しながら世人は之等の不良分子をただ冷い目で見るばかりで敢えてこれを善導しようともせず甚だしきは一般青年をも色眼鏡式にしている事は何んとしても遺憾な次第である▲賢明な阿知須町民よ!!我々の後をつぐべき次代の人は育ち行く青少年諸君である。彼等にもつともつと温い大きな愛の手を拡げ初ノ正しくすくすくとのびるよう育てるのが我々の急務ではなかろうか。

（写眞はえんえんたる福岡町ののり乾燥場）

貴重な収穫を生かそう

のり養殖場の視察を終って

漁協組　工藤靖夫

過迫せる漁村経済の打開と漁場の開発、このような面からして数年前より始めた海苔養殖もどうにか将来への明るい希望を見出したのであるが養殖、製造の技術において果して今日の水準に達しているか、否かが甚だ疑問である。幸いこの度町当局の御理解ある御援助の下に去る二月九、十の両日先進地熊本、福岡両県下の海苔場を視察させて頂き、それによって得た収穫の一端を述べてみたい。

△潮位の測定…海苔養殖成否のかぎであるこの測定を昨年当漁協組も実施したがその方法は教えられる処が充分あつた。

△胞子付…現在まで我々のおこなつて来たものより更に能率的な方法の指導を受けた。

△養殖…当町における養殖方法は吊式浮ひび法であるが、この方式より資材、網込、網張作業の簡便な網式浮ひび法を現場において実際に見学し、将来我々の進むべき方向を与えられた感があつた。

△製造…これは我々が行つている方法と同じ東京式で大差はなかつた。

△乾燥…福岡でおこなつている簡易乾燥場は是非共設置しなければならない。

以上概略ではあつたが、この視察行によつて得た貴重な収穫を今後の養殖事業に充分活用し町政発展の基盤たらしめねばならない。なお我々の製品と熊本の製品と比較したと遜色のないものであつたことを付け加えておきたい。

この視察にあたりて西日本の海苔の権威者企敢之助先生及熊本県の先覚者役者一到先生から、なみなみならぬ御指導を得た事を附記して筆を置く。

視察地…

熊本県飽託郡川口村　浅香漁業協同組合

福岡市箱崎　箱崎漁業協同組合

栄冠は引野チームへ

熱戦展開の駅伝競争

町民待望の三月二日は数日来よりの挙行者で懸念せられた天候も選手ならびに関係諸氏の熱意のためか予想外の絶好の運動日和となり午前七時なりひびくサイレンを合図に町主催第二回町内一周駅伝競走は開幕せられ、定刻九時半参加十六チーム百名の選手が集合し前年度優勝岩倉チームより優勝杯が返還された後、御定町長の開会挨拶、選手代表競技上の諸注意で一たん式を閉じ純白のユニフォームに身をかためた選手一同は各中継所へと送られ賑いウオーミングアップでコンデイションを整え、いよいよ出発予定の十時には第一区間の豆須士選が路上の白線に一列となれば我が部落の声援にとかけつけた数千の観衆に見守られ号砲一発勇しくスタートを切つた。

全長十四キロの沿道には部落代表をはげます観衆の群がほとんど間断をみせない程ぎつしりと山から、田圃からも声のかすれた声援が聞えつづき、あちらの山、こちらの森にこだまして余韻嫋々たるものがあつた。第一区間で四位にあつた引野チームが第二区に於て阿知須の金栗翁と名付くべき秋本実雄選手と六位にあつた源河、河内チームの平山選手の力走は他を見事にシャットアウトし両者が一二位を競う決戦となり第三区間では前年優勝岩倉Aチームがぐんぐん頭角を現すなど余裕を通じて終始シーソー的激戦が演じられた。

かくて十一時十七分引野チーム古谷選手がトップでゴールインし御定町長より栄えの優勝カップが引野チームに授与され、正午余町を沸かした大会は無事終了した。なお当日の成績は左の通り

◇団体

一等　引野チーム（一、一七分〇三秒）

二等　岩倉A組チーム（一、一七分二四秒）

三等　赤迫チーム

四等　源河・河内チーム（一、一九分二一秒）

五等　砂合A組チーム

◇区間賞

一区　下河路雄（岩倉B）　八分一九秒

二区　西山泰之（源、河）　九分三九秒

三区　牧野弘之（岩倉A）　一六分四六秒

四区　石川二郎（岡田）　九分二〇秒

五区　松永義務（赤迫）　一一分三七秒

六区　石川猛（岩倉A）　一七分一三秒

農業の機械化と共同利用

岡山視察を終えて

農業委員　中尾定雄

春たちそめたりとはいえども風の声一入寒き二月二十二日我々は日本における農業の先進地たる岡山地方視察の途につく。経営、動力化、畜力化では愛知、静岡、岡山は他の県よりも進んでいることはかねて耳にしていた、今その岡山への視察はよろこびとあこがれをもつた旅行であつた。

まず一行は岡山県南部の川辺川下流に紡績業と、たたみ表の集散地として知られている倉敷市に到いた。

我々は直ちに日本屈指の農業研究所として名のある大原研究所を訪れた。案内者の語るところによれば以前この研究所は二百町歩の耕地を持ち、経営と学術研究を主体として来たのだが昭和二十二年の農地改革により現在では二町歩を保有するのみで経営はやや困難な様子であつたが、所員各方面よりの支援により学術的な研究を続けて居り日本農業に貢献している幾多の貴重な資料を見学し小休止の後、別れを告げて門を出る。時の流れによつてその事業は縮少され、往時の盛観さはみられないが、その片影をしのぶには充分である。それはちやうど大和地方の旅をした時、隋唐に等しい名刹を訪れた時と同じやうな感じがしてならなかつた。私はこの国宝的な研究所がその矜持を失わずその将来に栄光あれと祈るものである。

茶屋町で下車すると私達は児島郡興除村へと歩を進める。たんたる平野の中を不毀川、晴れている麦、それがみんな点播であること、中耕作業は畜力や動力耕耘機が盛んに使用されていること、区画の大きく整理された田、広い平野の中を溝渠が整然と走り川排に竿さして物を運ぶすがたは我々の地方では出来ない風景である。薬剤とれんげが植付けられているが、私達の中に点々として荒い風景である。

〔…〕らぬ事を不思議に思つたが助力使用に不便なため労力の節減を主眼として進歩、改革をもたらして登場した稲の直播は、岡山県興除村であることを何かの雑誌で読んだが、ほとんど稲作栽培に変つていることは、みのがすことの出来ない私達に与えられた大きな課題であることを感じた。やがて興除村の篤農家で全国にその名を知られた、手島熊次氏の宅にたどりついた。手島氏を訪れた時氏は、丁度裏の田で麦の中耕作業を動力耕耘機で行つて居られたが、我々のために特に時間を割いて話つていただいた。

氏の経営は田地二町歩、乳牛四頭綿羊二頭、副業としてたたみ表の補強むしろ「加工品」の製造である、従業者は男二人、女二人、耕作は小麦一町歩、裸麦二反歩、それから豆二反歩、大麦二反歩、畑六畝歩、という経営で、耕作は播種から中耕除草、調整に至るまで畜力動力が使用され我々の経営に比して如何に大きな差があるかが伺われ大いに学ぶべきものがあつた。参考にその労力比較を出して見たいと思う。

	手島氏の場合	我々の場合
稲作反当	一四人	二二人
麦作反当	七人	一四人

稲作における労力は、稲離栽培において私の労力も反当十四人余である。これは稲作において手島氏が畜力を使用していられないためであるが、麦作においてその差の大きいことは何といつても動力畜力の利用によるものである。氏は動力用カルチベータ、麦播種機、むしろの製造、製縄、わら打ちに至るまで電力使用であることは岡山地方の農業が如何に機械化しているかが伺われるのである。私達は手島氏の語る農業経営についてまだいろいろと聞いてみたいことばかりであるが、時間がゆるさなかつたので、氏の邸宅を辞し別れをつげる。

我らはこの岡山地方の農業経営を観察したことにより、我々は色々と多くの農村問題を反省しなければならないことを見出した。経営面から見れば手島氏は水田のみの耕作であるのに対し我々の農業経営は田畑の耕作で経営条件としては手島氏の場合よりは、はるかに良い条件のもとに置かれている。然し機械化の点では一世紀おくれた農業の感がする。我々は先ず耕地の整理と共に機械化することである、これにより適期播種管理の合理化で増収はもとより「百姓というものは苦痛なものである」という観念を除去し若い人々の離農することも減少すると思う。また一面現在のような原始的な農業では婦人があまりに多く農耕に従事しているため家庭における炊事、衛生、栄養等あらゆる面で主婦としての仕事は全く忘れられた存在にあり、家族は豚小屋の様な処で起居し、男子は酒に親しむひまもなく充分な研究も出来ず無智な水呑百姓で生涯を過さなければならない、いつの日に文化的な生活の殿堂に浴することが出来ようか？といつてすぐさま農業の機械化という事も現状の農村経済では購入することに大きな悩みがある。これはなんといつても共同利用以外に道はあるまい、農業の機械化は栽培技術と共に農業経営から切り離すことは出来ない、実現する日もあまり遠い、ことでないと思うこんなことを夢みつつ汽車はいつしかほのぼのと明けそめる阿知須に着いていた。農業経営革命の期が来たかのような感じがする。

知っていて知らないものは？

△麦粒腫（めいぼ）がよく出来て困る人は、まぶたの上に白い粟粒ぐらいのものが出来たと言二、三回つづけてマッチの軸のようなもので灸をつければ簡単に治すことが出来る。

"乾海苔"の栄養価

いわしや牛肉より遥かに多い

海の香りと季節のにおいを運んでくれるうれしい所著「ホシノリ」は大変便利な、そして美味しい食物の一つであります。その偉大な栄養価値を知らない人がまだまだ多いようです。

元来欧米人はノリは食べられないというのが定説のようで、服部外遊した人の話が米紙に載つていましたが、欧州の博物館に「ホシノリ」が美しい瓶にはいつてヤタン・エッセン・パーピー（日本の食べる紙）と説明がしてあつたそうです。また米国総理の当時に宮城観覧で「ノリ」をみた米人が〝こんなザラザラした紙でよく字が書けるものだ〟と驚いたという話もあります。それほど迄に知られていなかつたということについてはあきれて物もいえません。近時輸出の増大と米人の関心も強くなつて来たようですが、栄養価については未だまだ一般大衆に知られていません。「ノリ」の持つ栄養価を他の食品、例えばいわし牛肉、卵、ほうれん草などに較べるとはるかにビタミンの含有量が多いといわれております。あの色の黒い「ノリ」が持つている斑質的な栄養価…それは食品というより薬といつた方が適切だと某医士は断定しています。それほど貴重な食品がただの嗜好品とみられていることは大きな損失であります。やがて〝食べる紙〟の汚名を一掃して世界的な美味しい食品として賞味される日が来る事を信じて疑わないものです（漁協組Ｙ生）

短歌

岩松文彌選

〇天　益弘哲一

いつくべくにつれ行くらんか隊列は小川の流れの如く続けり

（前明田想）

（評）小川の流れの如くが利いている

〇地　是枝英雄

納む苗の生活扶助費を近頃は幼き姉が受取りにゆく

（評）胸に沁みるものがある

〇人　松永勝美

新し着物皆の留ちて幾か吉日をひなどりの来るをみな待ちており

（評）すべて準備をととのえ終つて、約束のひなどりのくる日を待つている心もちの明るさ

〇同　河野英子

春陽のせまりし窓にスーツ縫ふミシンの上に春陽とどきぬ

（評）たのしい若人の一日

〇佳作　益弘哲一

麦を見む日まで命のありたしと祈りなる病臥に蚊を聴き居り

是枝英雄

白樺の墓標となれる友偲ぶシベリヤ颪の吹きつのる夜は

俳句

岩松文彌選

〇天　よし子

菜の芽のいつかそれぞれ伸びにけり

（評）「それぞれ」如何にも春らしい情景を躍動させていて明るい。

〇地　原田卜鳴

芽吹きそめし日記誌冊の今年より

（評）明るい新春躍動の新春の気分が出ている。

〇同　岡崎きいち

母居解けて干る椿の紅さかな

（評）急に賑くなつた庭に、椿の赤さが妙に眼にしみる。

〇人　大沢敏雄

は言かえる足袋にひと日の疲れかな

（評）おろしたての足袋で出たのだつたが、大分よごれている。随分かけずり廻つたものだ。

〇同　松永すみ子

夜警よりもどりし人にゆず茶たてる。

（評）あたたかい息吹きが感じられる。

〇同　比呂志

近よりて見ればほのぼの辺り咲く

（評）遠くから見たときは別になんとも思わなかつたのだが。

〇佳作

白梅の花あかりする夜明かな　よし子

異居の梅一枝が咲なよび　〃

朝毎に芽吹くものあり棚の下　比呂志

出掛ひし部屋に子猫と火を守り　河野英子

霜の夜の時計大きく刻を打つ　大沢敏雄

背釣もなく病み古したり木の暦　松永すみ

よろこびとかなしみ

出生の部

親	続柄	出生児	部落
坂田辰信	五男	正明	野口
田中鋭	長男	健二	飛石
藤本勝凪	二男	数実	棚南
上山隆之	長女	多恵子	東
浜中安郎	長女	あや子	恵比須
中原一男	二男	辰男	杖川
村田明之助	長女	美智子	恵比須
伊藤喜代正	長男	昭宏	河内
上原秀男	長女	洋子	岩上
藤友繁	二男	勝	東
数谷義務	長男	修	西條
稲川安太郎	二女	一枝	小南
江本忠雄	二男	明生	東
片山勇	長男	辰二	南原
八木沢吉雄	長女	典枝	旦西
川口森明	長男	勇	飯城
田辺計介	二女	幸子	岩西
田中勇治	長男	茂生	我石
江本博之	長女	洋子	砂三
藤田平治	三男	光雄	小西

婚姻の部

夫	妻	部落
伊藤喜代正	伊藤梅子	河内
鈴川敏男	上野梅子	岩辻
藤原保	土井節子	引野
岡本昭	佐々木トミ子	向井新
小野吉丸	片山静子	河内
中原正好	山本加代子	杖川
黒木森明	川口キミコ	岩田
松本武	島田ツルミ	旦北
矢儀三男	藤原昭子	小東
野村嶺	川野容子	砂二
岩崎恒人	菊地光江	寺河内

死亡の部

氏名	年令	部落
西田キミ	八五	棚北
背戸山伊三	三	旦北
渡辺ヨネコ	三二	小東
磯部ソノ	七一	小南
塚本小治郎	七六	野口
吉谷ヒデ	七三	赤江
村田鉄二郎	九四	東
坂根実	二	十文字原
徳永サト	五六	岩内前
西村作太郎	八五	浜東

編集後記

▲今月は皆さんより予想以上の御投稿を頂きました事を感謝します▲と同時にスペースの関係で全部掲載出来なかつた事を深くおわびします▲何れ機会を計り発表する心算でおりますから、どなたもどしどし御寄稿下さいますよう重ねてお願い致します。